

**南アルプス学会
設立総会 議事録**

年月日	令和4年2月15日(火) 10:30~12:30	
場所	静岡県庁別館9階 特別第一会議室	
参加者	会長	佐藤洋一郎(ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)
	副会長	横山俊夫(静岡文化芸術大学学長)
	顧問	増澤武弘(静岡大学理学部特任教授)
		佐藤道大(静岡県立大学薬学部講師) 黒田宏治(静岡文化芸術大学デザイン学部教授) 小杉山晃一(常葉大学社会環境学部社会環境学科准教授) 今野明咲香(常葉大学社会環境学部社会環境学科講師) 鵜飼一博(静岡県立農林環境専門職大学准教授) 岸本年郎(ふじのくに地球環境史ミュージアム教授) 松井圭介(筑波大学生命環境系教授) 常盤哲也(信州大学学術研究員理学系准教授) 箕浦一哉(山梨県立大学国際政策学部教授) 岸本誠司(東北工業大学ライフデザイン学部教授) 田村典江(総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員) 川口徹(静岡市環境創造課エコパーク推進担当課長) 中野裕文(川根本町観光商工課長) 神東美希(エコティかわね事務局長)
	招聘委員	上垣外憲一(元大妻女子大学比較文化学部)
	静岡県知事	川勝平太
	事務局	くらし・環境部 市川部長 くらし・環境部 織部理事(南アルプス環境保全担当) くらし・環境部 田島理事(南アルプス自然保護担当) くらし・環境部自然保護課 高松課長 くらし・環境部自然保護課 上家室長 くらし・環境部自然保護課 辰巳課長代理 くらし・環境部自然保護課 小林班長(司会)
	内容	
	司会	<p>ただいまから、南アルプス学会設立総会を開催します。</p> <p>開催に先立ちまして、報道の皆様にお知らせを申し上げます。本日の総会は、公開で行います。すべての議事について公開とさせていただきますが、ウェブ会議でございますので、進行の妨げとならないような撮影位置にご配慮をお願いしたいと思います。</p> <p>ではまず、今回の設立総会の趣旨にご賛同いただいた皆様ですが、お手元に配布しております出欠の一覧表にございます通り、総勢22名となっております。</p> <p>本日は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえまして、ウェブでのご出席をお願いさせていただきました。</p> <p>今回ご出席いただきました皆様につきましては、今回お見えいただいております佐藤館長はじめ、出席者が18名というふうになっております。</p> <p>なお、今回ご出席された皆様におかれましては、後ほどお名前と所属につきまして、1分程度の自己紹介をお願いさせていただきたいと思っておりますので、ここでは一覧表のご紹介に代えさせていただきたいというふうに思っております。</p> <p>それでは会議の開会にあたりまして、川勝静岡県知事からご挨拶申し上げます。よろしくお願いたします。</p>
川勝知事	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>主催者として、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>今回、南アルプス学会が設立の運びになったことを、県民を代表いたしまして、厚く御礼を申し上げ、また感激しているところでございます。</p>	

	<p>昨年の7月でございますけれども、南アルプスを未来につなぐ会というものが発足いたしました。</p> <p>その会長はゴリラの研究で有名な山極壽一先生。京都大学の総長も務められましたけれども、京大をジャングルに見立てられたというユニークな方が会長であります。</p> <p>副会長が今日こちらにご出席の、ふじのくに地球環境史ミュージアムの館長を務めていただいております、佐藤洋一郎先生でございます。</p> <p>顧問には、この地質学といえますか、地球物理の権威でございます尾池和夫先生にご就任をいただいております、その総会におきまして、南アルプスを学術的に研究するということが大事だということになりまして、その場で、副会長の佐藤洋一郎先生が、当時は「南アルプス学術フォーラム」というふうに仮の題にしておりましたけれども、委員長といえますか、トップにご就任を賜りました。</p> <p>その後、会の名前をどうするかということで、単純明快に、南アルプス学というふうになさいます、南アルプス学会ということとして、今日この設立総会に至ったということでございます。</p> <p>南アルプス学会は、言ってみれば南アルプスを軸にいたしまして、これを学際的、国際的そして総合的に、広い意味で研究し、楽しむ学会ということでございます。</p> <p>学際的ということですね、今日はこちらに増澤先生もいらっしゃいますけれども、生態学のご専門、或いは全体の顧問をされておられます尾池先生は、地球物理ということですね、いわゆる糸魚川静岡構造線、これの西側に南アルプスは、位置してるわけですが、これがひょっとすると、ユーラシアプレートと北米プレートの境にできてるんじゃないかといったような学説を出されている、これは南アルプス学に関わっておるわけでございますね。</p> <p>一方、増澤先生は、生態学といえますか、環境をされております。全然違うわけですね。</p> <p>そしてこちらの会長の佐藤先生は、お米の研究で有名ですけれども、食文化の権威でも知られているということで、様々の学問の方達がここにいらっしゃっています。</p> <p>私の尊敬しております横山俊夫先生は、日本の文明学の権威でいらっしゃいます。本当にこれ学際的ということでもありますね。</p> <p>国際的っていうのは言うまでもなく、南アルプスというのは、スイスアルプス、オーストリアアルプスといえますか、あそこから来てるんですけれども、これ明治時代にですね、ウェストンっていう人が日本にお越しになって、いわゆる飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈を踏破されて、これをジャパンアルプスと名付けられたわけですね。ですから、明治以来ここは日本アルプスとして知られておりまして、ですからそういう意味で、国際的なわけですね。</p> <p>同時に、富士山が世界遺産になったその翌年に、ユネスコのエコパークに任命されておりまして、これは文字どおり国際的存在であるわけですね。</p> <p>これが総合的である所以は、言うまでもありませんけれども、南アルプスは山として登山家に親しまれているわけですね。「山高きが故に貴からず」と言いますが、水がきまして、それによって大井川の流域で、様々の農業が営まれております。それからまた地下水を活用して、お酒も作られておりますし、水道水にもなっておりますし、さらに河口の近くでは、ウナギの養殖を作られてるわけですね。そうしたこともございまして、こうしたものを楽しむという食文化でございます。</p> <p>ですから、もう本当に準学問的なところから、楽しむところまで、まさに総合的にいろいろと南アルプスでやってみよう。</p> <p>しかもこれは国立公園であります。しかも北アルプス、いわゆる表銀座と比べましてですね、なかなか簡単に入れる山でもないということもございまして、そこにいろんな希少な生物も息づいていて。お花畑もあるということでございます。水辺で遊ぶこともできるということで、これは文字どおり総合的ということに相成りまして、今日はこの南アルプスを学際的総合的、また国際的に、いろいろと楽しみながら研究していただく、そういう会の発足になりました。</p> <p>私はこの地球環境の時代ないし、生命の時代と言われてる時代に、南アルプスを通して、グローバルの発信ができるように、またグローバルな形で魅力の中心になりますように、この中軸を担うのが、この南アルプス学会になりますように、お祈り申し上げまして、開会にあたりまして主催者の挨拶といたします。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
司会	<p>川勝知事、ありがとうございました。</p> <p>それでは今回ご出席いただきました皆様から、出席一覧表の順に1人1分程度でございますが、自己紹介をお願いしたいと思います。</p>

	<p>なお現在、上垣外先生がまだ参加されていらっしゃいませんので、上垣外先生につきましては、接続され次第ご挨拶をいただきます。</p> <p>なお川勝知事におきましては、次の公務がございます関係で、皆様が自己紹介をしていらっしゃる途中に、退席をさせていただきますのでご了承ください。</p> <p>それでは、名簿の順にご挨拶をお願いしたいと思います。</p> <p>まずは佐藤様、お願いいたします。</p>
佐藤会長	<p>皆様おはようございます。</p> <p>今ご紹介をいただきました、ふじのくに地球環境史ミュージアムの館長を務めております、佐藤でございます。</p> <p>南アルプスに登ったことがあるわけでもなし、南アルプスを中心に研究をしたことがあるわけでもない私がどうしてここに座っているのかというふうに自問自答しながらおりますが、今まで文系から理系までのいろいろな研究者と一緒にあって、学際的な研究、或いは最近では超学際と申しますけれども、そういうふうな研究をしてきた経験がございますので、そういうものを生かしながら、今知事がおっしゃったような、学際的で、総合的で国際的な学会として、皆様と一緒に楽しみながらこの学問を作り上げていきたいと思っております。</p> <p>どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして横山様、よろしくをお願いいたします。</p>
横山副会長	<p>横山俊夫です。よろしく申し上げます。学生になって初めて登った大きな山が赤石岳、聖岳でした。その時からずいぶん時が経ちましたけれども、このたび、このようなご縁をいただきました。</p> <p>南アルプスというのは、人間の細部の感覚まで揺さぶる大きさ、気高さがありまして、おそらくこれから地球社会で求められる文明のあり方というのは、civilization、つまり人間どうしの civility の向上だけを見るようなタイプの文明ではなくて、東アジア古来の「ウェンミン」、「ヴェンミン」、「ムンミョン」、「ブンメイ」と、同じ漢字を発音だけ変えて各地で語り継がれてきた古典的な文明というのは、様々な要素、特に天地と生類が綾なして明らかに輝いている状態を意味します。そういうことを考えるには、南アルプスは、皆様の学術のお力を結集して、新しい提言ができるのではないかと期待しております。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして増澤様、よろしくをお願いいたします。</p>
増澤顧問	<p>増澤です。20代から、高山植物の研究をしておりましたが、高山植物は極限環境で生育しているということで、環境にどんなふうにもく適用して高山植物が生きているかというようなことをテーマに、いろんなところの高山の調査をしてきました。</p> <p>東京にいる頃から南アルプス、それから北アルプス、それから北海道のそういうところで高山植物を対象に、生理生態学的な仕事をして参りましたが、また同時に、海外でも高山がたくさんありまして、極限環境のヒマラヤ、アンデス、キリマンジャロ、それから北極南極ってようなところが極限環境になっているわけですが、それらの植物を対象に、ずっと私自身も極限環境に出かけて行っておりました。</p> <p>そんなわけで南アルプスを見ますとね、静岡大学が置かれている位置が非常に南アルプスと密接に関連してまして、現在でも大井川上流、それから、大井川上り詰めたところに間ノ岳というように、静岡大学と南アルプスの関係は大変深いものですから、静岡大学に務めましてからずっと、南アルプスを中心として、富士山と並んでやってきました。</p> <p>なにしろ南アルプスの特徴は、なかなか行けないということが特徴なんですね。そして長い間私も見てまいりまして、人がたくさん入れないってことで自然度がすごく高いんです。自然度高いんですけれども、現在の状況を見てみますと、その自然度の高いところを鹿が平気で食い荒らしているというような状況もありまして、南アルプスそのものが、必ずしも安定した、これからずっと自然が高くて続いていくような状況でないというのを実感しております。</p> <p>そんなわけでこれから、この会議で多くの研究者がですね、南アルプスに入って、そしてそこで研究成果を上げていくということを大変期待しております。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>増澤先生すみません。静岡大学特任教授と記載しておりましたが、客員教授ということで修正させていただきます。</p>

	<p>続きまして鶴飼様、よろしくお願ひいたします。</p>
鶴飼委員	<p>静岡県立農林環境専門職大学で教えております。開学して2年目の新しい大学です。私普段は、林業の基礎技術を学生に教える仕事をしております。</p> <p>南アルプスとの関係は、平成15年に増澤先生から、私が今日の事務局の自然保護課にいた時に、一緒に調査をしませんかというお誘ひを受けまして、そこから南アルプスに毎年入っている状態なんですけれども、2つテーマがございまして、1つは防鹿柵内の植生変化の観察を続けているということ。もう1つは裸地部の植生復元ができるかということ。この2つのテーマを持って、約20年近く、南アルプスに毎年通っているというような状況です。</p> <p>それではよろしくお願ひいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではふじのくに地球環境史ミュージアムの岸本先生、よろしくお願ひいたします。</p>
岸本太郎委員	<p>岸本と申します。よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>私は昆虫の分類学を特に専攻しておりまして、この5年間ぐらい南アルプスの高山に登りまして、特に土の中に住んでいる非常に小さな甲虫の仲間、ビートルズの研究をしております。</p> <p>わかってまいりましたことが、やはりこれまで研究がなかなか進んでこなかった、嚴重にプロテクトはされてるんですけども、小さな昆虫の調査まで手が回ってなかったということで、新たな発見、まだ名前がついていない未記載種ですとか、南アルプスからは記録のなかったものですとか、そういったものを発見することができております。</p> <p>今年度から自然保護課と共同しまして、全国各地の昆虫研究者に来ていただいて、これまでに調査できなかったような分類群についても調べました。そうすると、まだ未公表ではあるんですが、日本未記録のハエの属ですとか、それこそ半世紀ぶりに再発見された蛾とか、そういうのが続々と見つかっています。</p> <p>アプローチが難しいということがありますけれども、非常に魅力的なところ。それから、南アルプスの高山というのは、南の方にある世界的にも、例えばライチョウの南限であるとか、高山植物にいくつかの種の南限であるとか、そういうのがたくさんあります。昆虫でもそういうことがありそうですので、そういうことを調べながら、皆さんに発信する機会というのを設けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして黒田様、よろしくお願ひいたします。</p>
黒田委員	<p>黒田と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>専門はというと、地域のデザイン、社会のデザイン、それから政策を中心とした現代デザイン史、並びに地域活性化の、ないしはまちづくり、そういった方面の計画づくり、研究をしております。</p> <p>南アルプスとのご縁ということになりますと、南アルプスエリアにフィールドとして川根本町という町がございまして、そちらで過去10年ぐらいいろいろ地域の計画づくりや、学生を連れてのワークショップ、都市農村交流、そういったようなこともやってきました。</p> <p>そうした中で、特に南アルプスエリア、一般的には中山間地域、辺境の地域、条件不利地域と言われてますけれども、最近新しい若い力の移住者の方も見え始めておってですね、新しい可能性を秘めている。</p> <p>偏狭すなわちフロンティアであるといった中で、南アルプスならではの新しいvernacularな、オープンなコミュニティ、自然があり、なりわいがある新しい地域社会、そのようなものの研究と実践でお手伝いできたらなと思っております。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは小杉山先生、よろしくお願ひいたします。</p>
小杉山委員	<p>常葉大学の小杉山と申します。</p> <p>専門領域といいますか、大学院の途中で研究投げ出しまして、長らく自然保護団体で、自然保護の現場でいろんな活動を続けていました。</p> <p>ですから研究者としては箸にも棒にもかからないかもしれませんが、自然保護団体で培った経験なり、知識なりをこういう場で役立てることができればなという、そういう期待は持っております。</p> <p>学生時代、増澤先生から教わったことが今でも非常に生きてるなということで、改めて勉強し直したい部分がありますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>

司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは今野先生、よろしくお願いいたします。</p>
今野委員	<p>小杉山先生と同じく常葉大学の今野と申します。</p> <p>元々私の出身が東北地方で、南アルプスには実は登ったことがありません。</p> <p>ただ、博士課程までずっと東北の山を歩き回っていて、亜高山帯と言われる場所の地形と植生の発達の変化について研究してきました。</p> <p>やっぱり東北地方の山をずっと登ってきた人間からしても、南アルプスは非常に興味深いと思いますか、火山帯じゃありませんので、東北地方のように地すべりのような場所があまりないのと、やはり斜面が、地形が全然違うということで、その植生環境がかなり変わってくる。</p> <p>私の専門が自然地理学と言って、地理学は割と分野融合的な研究をやる人が多いんですけども、そういう地形学とか、或いはそこに生えている植物とか、そういうものをゴチャッと混ぜたような地生態学と言われるような分野の方で研究をしています。</p> <p>これから皆様と一緒にいろんな南アルプスのことについて研究できることをうれしく思っています。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは佐藤様、よろしくお願いいたします。</p>
佐藤道大委員	<p>静岡県立大学の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>私は今生薬学という研究室にいますんですけども、生薬って植物のことなんですけれども、実は植物を集める専門家ではなくて、主に微生物の研究をしています。微生物が作る物質、それについての研究をしています。薬品になったりだとか、活性をもとに治療を求めて研究してるんですけども、南アルプス学ということで、地域環境保全とか、そういう大きな視点ではなくて、ミクロな視点から南アルプスのメリットを見出せたらなと思います。</p> <p>岸本先生が仰っていた南アルプスの昆虫を調べたように、微生物でも同じようなことが言えると思います。南アルプスが天然資源の宝庫だということを、これから調べていければと思っています。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは東北工業大学の岸本先生、よろしくお願いいたします。</p>
岸本誠司委員	<p>おはようございます。東北工業大学の岸本です。</p> <p>私は専門は民俗学でございます。</p> <p>今日の名簿に招聘委員として名前があります、赤坂憲雄先生と一緒に東北学という知の運動のような取り組みをずっとしております。</p> <p>最近ではジオパークですね、鳥海山・飛島ジオパーク。今ちょっと背景に鳥海山の写真を入れていますけれども、ジオパークのハンドリングをしております。</p> <p>エコパークの話が出ております。ジオパークとエコパークは非常に親和性があるし、それからその南アルプス学ですね、東北学とか会津学といったような地域学的な括りというのは、人の歴史を背景として取り組んでいたものなんですけれども、南アルプス学という名前になった時には、やっぱりその南アルプスという括りの中で出てくる価値のようなものが大事になってくるのかなという感想を持っています。それはやはり生き物でありますとか、大地の成り立ちだとか、そして人の暮らしというものがどう関わっていくのか。</p> <p>そうした展開に期待しておりますし、私も勉強させていただきたいと思っております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは田村様、よろしくお願いいたします。</p>
田村委員	<p>総合地球環境学研究所の田村典江と申します。おはようございます。</p> <p>専門は農林漁業の制度や政策ですとか、持続可能な食と農、或いは多様なセクターの関わる自然資本管理といったところですね。もともとは海の研究をしてまして、海拔が低い方が専門ですし、林業もやっていますので、裏返して言えば森林限界から上は専門外ということで、そういう意味では高山帯でどのようにお役に立てるかなと思うんですが、森川海の繋がりについて研究をしましたこととか、市民社会との協働といった研究しておりますので、この辺では役に立てるかなと思っています。</p>

	<p>ご承知のようにですね、山村地域に住む方々にとって農業や林業というのは、言うまでもなく主要な生計手段なわけですけれども、人口減少時代に入って、日本全国、南アルプスエリアだけでなく日本全国で、農林業をこの先どうしていくんだと、農林業の未来ビジョンって何なんだということが問題になっているわけです。</p> <p>そこに南アルプスの場合は、自然の豊かさですとか、レアルティみたいなものが関わってくることもありまして、南アルプスエリアで、極限状態の山村地域の農林業の未来みたいなことを考えることは、日本全国にもいずれ還元できる研究になるんじゃないかなと期待しております。</p> <p>私の専門に引きつけて言えば、南アルプスエリアのうち、川根本町は世界農業遺産の静岡のエリアでもありますので、そこの共通点みたいなことが、少し私自身は気になっているところなんです。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは常盤先生、よろしく願いいたします。</p>
常盤委員	<p>信州大学の常盤と申します。</p> <p>地質学を専門としておりまして、南アルプスにつきましては長野県側ですが、調査研究というのも携わっております。</p> <p>地質学的な観点からこの会議に少しでも貢献できればと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは松井先生、よろしく願いいたします。</p>
松井委員	<p>筑波大学の松井と申します。</p> <p>私は元々人文地理学と宗教学というのを学生時代に学んでいまして、長じて今は、いわゆる科研で言いますと観光学のところで、主に仕事をしています。</p> <p>研究のテーマとしましては、農山村地域における場所の商品化ということで、国内では主に白川郷ですとか、或いは熊野古道、また五島列島をフィールドにして、世界遺産とそしてツーリズムによる地域に与えた影響ということを、今は主に研究しています。</p> <p>筑波大学は4年ほど前から静岡大学、山梨大学、信州大学とともに産学科学学位プログラムという修士課程を立ち上げまして、ここにおられる先生方と一緒に仕事しております。本学では井川に演習林がありまして、そういったところの部門の先生方とも協力しながら、ぜひ南アルプス学の今後の発展に微力ながら尽くしたいと思っております。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは箕浦先生、よろしく願いいたします。</p>
箕浦委員	<p>おはようございます。山梨県立大学の箕浦と申します。</p> <p>私は元々専門としては、音環境の領域を中心に研究をしておりまして、その後山梨に参りまして20年になりますけれども、もう少し幅広く景観であるとか、地域コミュニティさらには都市から地方への移住など、生活環境の観点から地域社会、文化の研究をしております。</p> <p>研究フィールドとして、また学生の教育・活動のフィールドとしまして、山梨県早川町をはじめとした南アルプスの山梨県側の山に近い地域にいろいろとご縁がございます。</p> <p>山梨、長野を含めた南アルプス地域に光の当たるこの南アルプス学会になりますように、少しでもご協力できればと思っております。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございます。</p> <p>それは静岡市から川口様、よろしく願いいたします。</p>
川口委員	<p>静岡市の環境局で、エコパーク推進担当課長をしております川口と申します。</p> <p>今回行政という立場から参加ということになります。</p> <p>静岡市ですが、川根本町さんと一緒に3県10市町村で、エコパークの登録地域となっております。南アルプスユネスコエコパークの発展に向けた取り組みを現在進めております。</p> <p>こちらの協議会の方をつくりまして、ふた月に1回ぐらい、10市町村で会議なんかも行っております。</p> <p>これまでエコパーク登録に向けて集積した知見、静岡市でも持つ様々な学術的な研究結果もありますので、そういった資料もぜひ今回の学術会議の中で生かしていきながらやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

司会	<p>ありがとうございました。 それでは川根本町から中野様、よろしく願いいたします。</p>
中野委員	<p>川根本町の中野でございます。よろしく願いいたします。 川根本町は、大井川上流ということで、先ほど静岡市の川口さんからお話ありましたように、川根本町については全地域がユネスコパークの登録地域となっております。 私の課では、観光振興、また商工振興に加えまして、エコパークの推進ということで行っております。 3県 10 市町村で行う協議会、それから静岡市さんとかの連携協議会、また地域の活動者によります協力を得ながら地域での活動に取り組んでいるところでございます。 この会議を通じていろいろ勉強させていただきながら、推進に活用していきたいと考えております。 よろしく願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。 それでは神東様。よろしく願いいたします。</p>
神東委員	<p>川根本町にあります、一般社団法人エコティかわね事務局の神東と申します。よろしく願いいたします。 川根本町は、先ほど言われたようにエコパークのエリアになっているということもありまして、主にエコツーリズムの推進をしております。 町内の自然とか、文化、暮らしを町内外の方に体験していただくといったようなツアーを企画運営しているのが主な業務になります。 それ以外に、川根本町の行政ですとか、大井川流域の市町行政と連携させていただいて、流域の市民の方たちに大井川の恵みのことをお伝えする啓発の事業なんかもやらせていただいております。 学術的なことは全くわかりませんが、地域で活動する者として、住民の方たちにより南アルプスの魅力とか、そういったことをわかりやすく伝えるために何かお力になれたらなと思っております。 よろしく願いいたします。</p>
司会	<p>皆様、ありがとうございました。 なお、本日ご都合がつかず欠席となりました皆様についてご紹介をさせていただきます。 まず、委員の方から、静岡大学大学院農学領域教授の今泉様。 山梨大学総合研究部生命環境学域環境科学系教授の岩田様。 それから地域の活動者として、井川郵便局長でいらっしゃいます荒尾様。 招聘委員からは、学習院大学文学部教授の赤坂様。 以上の皆様が、今回残念ながら欠席となっております。ご報告させていただきます。 それでは、議事を進めて参りたいと思います。 まず、議長ですけれども、本来であれば会長が進めるところでございますが、まだ会則の採決が済んでおりません。 この関係で、会則の採決が済むまでの間につきましては、事務局の方で会を進行させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。 はい、ありがとうございます。 それでは、しばらくの間事務局の方で進行をさせていただきます。 事務局が進行をさせていただきます議案につきましては、第1号議案及び第2号議案までとさせていただきますので、よろしく願いいたします。 なお本日の会議の終了時間は、概ね 12 時半ごろを予定しております。皆様のご協力をお願いいたします。 でははじめに、第1号議案、設立趣意書(案)についてご協議をお願いしたいと思います。 まず、本会の概要を説明させていただいた後に、設立趣意書(案)について事務局から説明をさせていただきます。 では事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>静岡県くらし・環境部自然保護課富士山・南アルプス保全室長の上家です。 それでは、資料1によりご説明させていただきます。 本日は、第1号議案から第4号議案までについて、皆様にご協議をいただきます。</p>

まず第1号議案、設立趣意書(案)の説明に入ります前に、本会の概要についてご説明いたします。

まず名称ですが、先ほど川勝知事から説明がありました通り、これまで「(仮称)南アルプス学術フォーラム」としてご案内してまいりましたが、シンプルでわかりやすい名称の「南アルプス学会」とさせていただきます。

正式には、この後ご説明いたします第1号議案の承認をもって決定とさせていただきますが、説明の都合上、新名称にてご説明をさせていただきます。

本会は、自然環境の保全のみならず、それを支えてきた地域や文化をも視野に入れた研究活動の活性化により、国際的な南アルプス学の発展に寄与することを目的とし、南アルプス研究者の連携の促進や、研究成果などのデータベース化及び体系化のほか、若手研究者を育成できる支援制度などの創設の取り組みを進めるために発足します。

事務局は自然保護課が担い、運営につきましては、令和2年度に創設しました「南アルプス環境保全基金」を原資に行ってまいります。

続きまして、本県が考える南アルプスの保全、利活用に関する取り組みの全体像、「南アルプスモデル」についてご説明いたします。

県では、昨年度から南アルプスの保全と魅力の発信について様々な取り組みを進めており、昨年3月には、一般の方からの支援の受け皿となる「南アルプス環境保全基金」を設立いたしました。

また、昨年7月には、南アルプスの持つ自然の希少性と貴重性についての理解を深め、より良い形で未来につないでいくことを目的に、多様な方から保全活動や利活用についてご意見、提言をいただく「南アルプスを未来につなぐ会」を立ち上げました。

さらに、今後の予定ですが、今年の8月には、利活用・保全・魅力発信の継続的な取り組みを行う自立性の高い実働組織として、「(仮称)南アルプス未来財団」を設立する予定となっております。

このように、県では、県民や国民的な協力を得ながら、南アルプスの保全、利活用について意見・提言、学術的発展、それらを含めた継続的かつ自立的活動という3つの柱により、「南アルプスモデル」の構築を目指していきます。

続きまして、本会における南アルプス研究の推進体制です。

本会はふじのくに地球環境史ミュージアムを研究の推進コーディネーターとしております。

来年度、新たに学芸員を2名配置し、中核的に位置付けて活動を進めてまいります。

また、研究者の拠点となる施設を「(仮称)フィールドステーション」として現地エリアに近い場所に確保し、滞在型の研究活動が可能な体制を整備する予定です。

さらに、「南アルプスを未来につなぐ会」からの意見、提言なども参考としながら、最終的に世界に発信できる「南アルプス学」を構築していきたいと考えております。

続きまして、第1号議案、設立趣意書(案)についてです。

本会の求める方向や目指すものについて、自然環境の保全、文化の継承が両輪となって、「南アルプス学」を構築していくことを趣意書に記載しました。読み上げさせていただきます。

南アルプスは日本有数の山岳公園です。3000m 峰を有する稜線部を中心とした核心地域には、氷河期からの遺存種をはじめ、希少な動植物が生息しています。同時に、日本最南端の3000m 峰を有することから、地球温暖化の影響が最も顕著に現れる場所でもあります。

南アルプスはまた、静岡、山梨、長野3県と関係10市町村が一体となった働きかけにより、平成26年6月、国際連合教育科学文化機構ユネスコからユネスコエコパークに登録されました。

それは自然と人間の共生を目的に、地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然とともに文化的にも経済、社会的にも持続可能な発展を目指す地域、まさに世界の宝、人類共通の資産として認められたこととなります。

一方南アルプスは、その急峻さや奥深さから、生態系や環境の変化を追跡し記録することが、かねてより困難でした。

さらに、山間地の人口減少に伴い、環境保全を担う人も不足し、地域社会を支えるなりわいそのものの存在も危ぶまれ始めています。

また、学術の世界でも、息の長い研究の遂行が年々困難になっていっていることも深刻です。

	<p>こうした課題を克服し、南アルプスの自然環境の保全と持続可能ななりわいを、人類共通の資産として未来に着実に繋いでいくために、研究者や地元関係者、企業、ボランティアや行政など、多くの立場の人たちが連携、協働し、自然環境の調査研究と保全活動の定着、地域社会伝来の行事や文化の継承維持、地域にふさわしい産業の振興などを一体として目指す、いわば風土を再発見し、再考するための学問、「南アルプス学」の創生が求められています。</p> <p>これに応えるために、関連する知を体系づけて統合し、世界に語りかける研究プラットフォーム「南アルプス学会」をここに設立いたします。</p> <p>以上が、事務局からの説明になります。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明内容につきまして、ご意見等ございましたら、発言ボタン等押しいただければ、こちらの方からご指名させていただきます。</p> <p>皆様よろしいでしょうか。</p> <p>静岡市さんよろしく申し上げます。</p>
川口委員	<p>川口です。ご意見というかですね、前回に見させていただいた資料から、趣意書の方が大分変わられたのかなと思ひまして、ちょっと気になった点があったものですから、少しご意見させていただきますと、2段落目の「南アルプスはまた」の後の「静岡、山梨、長野3県と関係 10 市町村が一体となった働きかけにより」と書いてありますが、ユネスコエコパーク登録の際に、10 市町村の南アルプス市さんなどが特に頑張っておられていたものですから、ニュアンス的に何となくちょっと違うのかなと感じております。あと表現的に働きかけによりってというのが、確かに働きかけていらっやったということなんでしょうけど、組織的に働きかけるって表現よりも、連携してといったような、一緒に取り組んでいったというような表現の方がいいのではないのかなと感じています。</p> <p>あとですね、最後の方の段落になりますが、「こうした課題を克服し」のところ、今まで研究されてきた方もいますし、南アルプス学については、それこそ前回の事前打合せの時にお話もさせていただきましたけど、世界遺産を目指して、南アルプス学について総論をかなりまとめた経緯もございます。</p> <p>かなり増澤先生をはじめ多くの先生や、地域の人たち、地元の研究者の知見なんかもあるものですからね。こんなところを生かしながら、この南アルプス学をさらに発展させていく方がいいのかなということで、文章的にちょっとその辺が薄いというか、これまでの頑張ってきた人達を、例えば、「これまで蓄積された学術的知見をもとに」とか、「とともに」とか、そういうような文を入れては。また、南アルプス学、こうイメージ的にきっちりあるわけではないのかもしれないんですけど。そういった言葉が使われてきた経緯もあり、創生よりも発展、引き続き発展していくってような形の方が、エコパーク的には、継承していくってところがありますので、過去の歴史や文化、そういったところを考えると、これまで蓄積されていたものをしっかりと生かしながら、この南アルプス学としてさらに発展させていく。そういうような仕立てにさせていただいた方がいいのかなと感じております。</p> <p>すみません長くなりまして。以上です。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>この件について何かご意見がある方いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ただいまいただいた大変貴重なご意見につきましては、もう一度事務局の方で、ご意見をもとに構成案を作り直しまして、会長、副会長と相談のもと、また皆様方にご案内を差し上げるという形をとりたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>その他ご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それでは、ご意見ございませんようなので、今川口様からいただきましたご意見を参考に、もう一度事務局からですね、皆様方にご提案させていただきたいと思ひます。</p> <p>第1号議案のご協議いただきましてありがとうございました。</p> <p>それでは、第2号議案の会則の案につきまして、ご協議をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>では資料1-7ページをご覧ください。</p> <p>第2号議案、会則(案)となります。</p> <p>本資料は、会則条項のうち、特に重要な部分を抜粋しご説明をさせていただきます。全部につきましてはお手元にお配りしました資料3にございますので、そちらをご覧ください。</p>

	<p>はじめに組織です。構成員につきましては、会長1名、副会長1名、委員20名以内、招聘委員5名以内といたします。なお、現時点での本会の構成員は22名であり、このうち、委員が19名、招聘委員が2名、顧問1名となっております。</p> <p>このうち会長につきましては、知事が指名することとし、先ほど知事の挨拶でもありました通り、ふじのくに地球環境史ミュージアム館長の佐藤洋一郎様を会長に指名させていただいております。</p> <p>また、副会長につきましては会長の指名、顧問につきましては会長が委嘱することとし、こちらにつきましては次の議題においてご協議いただきます。なお招聘委員につきましては、会長が委嘱するものとし、必要に応じ、助言、提言をいただく予定です。</p> <p>続きまして、会議になります。会議につきましては、本日開催しております総会と、運営委員会を設置いたします。</p> <p>規定の内容につきましてはご覧の通りですが、総会・運営委員会ともに、会長が招集いたします。なお、招聘委員については、会長が必要と認めた場合、招聘することができるという規定を設けております。</p> <p>続きまして、会の所掌になります。総会につきましては、本会の運営方針の意思決定など、会の重要事項等についての意思決定の場であり、運営委員会は、そのために必要な検討を行う場であることを基本とし、第3条に掲げる事項について具体的に検討を行うほか、実施をいたします。</p> <p>以上で事務局からの説明を終わりにいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまご説明があった内容につきまして、ご意見等ございましたら発言をお願いいたします。</p> <p>箕浦先生よろしく申し上げます。</p>
箕浦委員	<p>第4条のところに「知事が委嘱する」という文言がございましたけれども、そちらを「静岡県知事」としていただくのが、学会の会則としてはふさわしいのではないかなというふうに感じました。山梨から参加してるからというわけでもありませんけれども、会則が一番上位の規程ということでしたら、そちらに静岡県と入れていただくと、後ろの事務局のところも、静岡県くらし・環境部というような書き方をなさっていますし、それがふさわしいのかなというふうに感じました。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
司会	<p>おっしゃる通りだと思います。</p> <p>県外の皆様にもご参加いただいておりますので、静岡県というふうに、会則に明記するよういたします。ありがとうございます。</p> <p>他にございますでしょうか。</p> <p>そうしましたら、先ほど箕浦先生からご提案いただきました、静岡県という表記を会則の中にも含めるということで、改めて会則を作り直しまして、皆様方にお送りさせていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは事務局の方で修正することをもって、この会則についてご承認をいただけますでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。ご承認いただきましたということで、修正した上でお送りさせていただきます。</p> <p>それでは第2号議案、会則についてご承認いただきました。こちらの採決を持ちまして、当会会則に基づき、会長につきましては、知事の指名によりふじのくに地球環境史ミュージアム館長の佐藤様にご就任をお願いしたいと思います。</p> <p>なお、ここから先の協議につきましては、会則の第9条の規定に基づきまして、会長にお務めいただきますので、会長に進行をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは準備をいたしますので、少々お時間をいただきたいと思います。</p>
司会	<p>それでは佐藤会長、よろしく願いいたします。</p>
佐藤会長	<p>それではただいまから、会則に従いまして、私が議事を進行させていただきます。皆様どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>早速ですけれども議事に入ります。</p> <p>第3号議案、副会長の指名及び顧問の委嘱について協議をお願いいたします。</p> <p>先ほど採決になりました本学会の会則に基づきますと、副会長につきましては会長が指名する、顧問については同じく会長が委嘱するというふうになっております。従いまして、副会長の</p>

	<p>指名及び顧問の委嘱につきましては、副会長を静岡文芸大学学長の横山様、顧問を静岡大学客員教授の増澤様をお願いしたいと思っております。</p> <p>皆様いかがでしょうか。</p> <p>はい。異議がないというふうに認められますので、そのように決定をさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>それでは早速ですけれども、副会長に就任をいただきました横山様、それから顧問に就任をいただきました増澤様から、改めてご挨拶をお願いしたいと思います。</p> <p>横山先生よろしく申し上げます。</p>
横山副会長	<p>副会長という役につきまして、中身がいかげなものかということは、これから日々学んで、重ねていくしかないと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>引き続きまして増澤先生、よろしく願いいたします。</p>
増澤顧問	<p>挨拶でもお話しさせていただきましたけれど、南アルプス、自然を対象、またはその地域の文化を対象に、いろんな研究が行われる、そういうものがたくさん残ってるところですので、できるだけ研究者が中に入れるように、それから若手研究者がそこで育つような状況をこれから作っていかれたらと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。それでは両先生、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>続きまして、第4号議案。</p> <p>事業内容及び事業計画等につきまして、皆様のご協議をお願いしたいと思います。</p> <p>事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>11 ページをご覧ください。第4号議案、事業内容及び事業計画等です。</p> <p>まず、「南アルプス学会」を設立するにあたり、県が考える南アルプスが抱える現状としての課題、解決に向けた取り組みの方向性、目指すべき姿についてご説明します。</p> <p>はじめに、自然環境全体を俯瞰した課題ですが、人間活動が限界に近いと言われる昨今において、我が国においても、自然を意識できる環境が日常生活から遠い存在となっているほか、これらを研究する活動についても困難な状況となっております。</p> <p>一方、南アルプスに目を向けますと、大変貴重な自然環境を有しておりますが、立地的な問題により環境の影響を受けやすく、また、これを支えてきた地域についても人口減少などが進んでおります。</p> <p>そこで本会は、豊かで特色のある本地域の自然環境の保全に関する調査研究を進め、さらに、地域の文化やコミュニティの継承、地域振興を目指す研究のプラットフォームを構築し、研究活動の成果として知を体系化し、世界に通じる「南アルプス学」を構築していきたいと考えております。</p> <p>続きまして、基本的方向性の確認です。</p> <p>まず、「南アルプス学」ですが、趣意書にもあります通り、多くの立場の人たちが連携協働し、自然環境に関する調査研究と保全活動の定着、地域社会伝来の行事や文化の継承維持、地域にふさわしい産業の振興などを一体として目指す、いわば風土を再発見し、再考するための学問と定義させていただきました。</p> <p>また、学術的評価についてですが、3点を挙げさせていただきましたが、学術研究は研究者の自由な発想と、研究意欲を源泉として行われる知的創造活動であるとの立場に立ち、優れた研究を積極的に評価するとともに、評価を通じて研究活動を奨励し、その活性化を図ることを重視しようと考えております。</p> <p>また、地域との繋がりにつきましては、地域が南アルプスの保全に大変大きな働きを果たしていただいている現状を改めて重視し、この地域に人が誇りを持って住んでいけるよう、学術がその誇りに繋がることを発見することに貢献したいと考えております。</p> <p>続きまして、具体的な本会の取り組みです。</p> <p>短期から長期と期間を問わず継続的に取り組む事項として、1、時代情勢に応じた研究内容の設定。2として若手研究者の育成方法、この2点を提案させていただきます。</p> <p>研究内容の設定につきましては、時代情勢に応じ、課題が変わり、研究すべきテーマもそれに合わせて変わっていくものと考えられます。本会といたしましては、その変化に柔軟に対応し、その時々求められる最善の研究を進めていきたいと考えております。</p>

	<p>一方、趣意書やこれまでの説明でも触れてまいりました通り、現在の研究では、制度的な課題などもあり、研究者が育たない状況になっており、特に次代を担う若手研究者の育成が急務となっております。これらに対応できる手法についても併せて検討していきたいと考えております。</p> <p>続きまして短期的な検討課題です。</p> <p>先ほどご説明させていただきました通り、研究人材の育成が急務となっております。</p> <p>そこで、研究支援制度を創設し、運用を開始したいと考えております。</p> <p>具体的には、来年度の秋から公募を開始できるよう、今年度末から来年の夏ごろにかけて、制度設計を行い、秋から公募開始。令和5年度から制度の運用に入りたいと考えております。</p> <p>制度においては、現在ある各支援制度が抱えている現実的な諸課題を踏まえ、委員間での議論と検討の末、研究者に魅力的で、将来的に科研費などの取得に繋がるような支援を行いたいと考えております。</p> <p>本制度は、外部からの応募希望者はもちろん、今回ご参画いただいております各委員の皆様も活用できる制度にしたいと考えております。これを踏まえつつ、皆様から、ぜひ忌憚のないご意見、ご指導を今後いただけますと幸いです。</p> <p>事務局からの説明は以上となります。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今ご説明があった点ですけれども、まず 11 ページの一番上のところのプラネタリーバウンダリー、これ惑星の限界とあるんだけど、これ多分ロックストロームさんの論文というか、彼が作った言葉で、もし日本語にするならこれは地球の限界の方が適当だと思いますので、以後地球の限界ということにしたいと思います。</p> <p>それでは、今のご説明につきまして、皆様のご意見があると思います。手を挙げていただきますと幸いです。いかがでしょうか。</p> <p>横山先生、お願いします。</p>
横山副会長	<p>今見ていただいている 11 ページでひとつ申し上げたいことは、知の体系化と世界に通じる「南アルプス学」の発展への寄与と謳ってありますけれども、差し当たって大事なものは、学会員相互の間で、言葉がうまく通じ合うかどうかですね。特に専門の細分化が激しい分野では、記号とか、略称、略語が随分飛び交うものですから、それを並べるだけでは、多様な成果がお互いの対話に繋がり、自ずと体系を成し始める動きにはなっていないということでしょうね。それから、世界に通じるという場合も、いわゆる国際学会の中で通じるということだけではなくて、できれば、例えば英語で言えば、プレイン・イングリッシュというような言い方がありますが、日常で語られるような表現ができて、知識の水準も落とさない場合は大いにそのような表現を心がける。そして、どうしてもこれは他の用語はありえないという場合には、丁寧な説明、場合によってはバイリンガルで言い重ねても対話を引き出す努力が必要であるというのが、今少し思ったことです。</p>
佐藤会長	<p>おっしゃる通りだと思います。</p> <p>異分野でやりますと、1つの同じ言葉が全然違う意味に使われるということはよくあることですので、その辺は丁寧に進行したいと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>前回といいますか、打ち合わせ会のようなことを1回やったんですけれども、そのときにはご出席できなかった委員の方が何人かいらっしゃいますので、特に発言というものがなければ、前回欠席であった方のご意見を拾ってみたいと思います。</p> <p>この名簿の順番でまいりますと、ふじのくに地球環境史ミュージアムの岸本さん、いかがでしょうか。</p>
岸本年郎 委員	<p>私どもふじのくに地球環境史ミュージアムは、こちらの会の推進の主体を担うところがあると思います。今後、新たな本業務に関わるもしくは、南アルプス研究の推進に関わる人材を今後採用するという予定でおります。</p> <p>むしろ私の方からこういったことに今何かを申し上げるのではなくて、ふじのくに地球環境史ミュージアムとして、この学会に貢献できるように努力したいと思いますので、各先生方からの本当に忌憚なき前向きなご意見をたくさん頂戴したいと思いますので、私どもの方でそれを受け止め、如何に推進するかということを考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。</p>

	今日の資料への意見ということではなくて、私どもの組織の決意の表明ということととっていただければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。
佐藤会長	ありがとうございます。代弁していただいているんですね。 続きまして、小杉山先生、お願いします。
小杉山委員	先ほど説明いただいた、一番最初の説明の中で、南アルプス学会とそれから博物館、ふじみューですね。それからフィールドステーション等々の役割分担のお話があったものですから、おそらく学会の目的と関連するいろいろな団体組織等の役割の中で、違った計画などが出てくるんじゃないかなというふうに期待はしているんですが、多分ここで蓄積された研究成果を、どのように人々にというか、これは静岡県というのが頭にあり、あちこちで出てきているんですが、多分世界に発信するっていうことであれば、県民という枠の中ではないと思うんですけども、この成果をどのように発信していくのかという、そのあたりが学会の中でももう少し触れられていけばいいのかなっていうことをふと思いました。以上です。
佐藤会長	ありがとうございました。 今の点も非常に重要なポイントだと思いますので、学会としてどうするかという、そのスタンスをもうちょっと明確になるように、注意をして計画を変えていきたいと思っています。 どうもありがとうございました。 続きまして今野先生いかがでしょうか。
今野委員	今野です。特にいただいた内容について異議があるわけでもないんですけども、若手研究者の育成ということで1つだけ議題にさせていただきたいんですが、私もつい5年前に学位が終わったところで、自分はまだ若手だという認識はあるんですけども、その時に非常に思ったのが、研究資金がやっぱり若手にはないと。研究しづらい環境が割と博士課程の学生とか大学院生は多いんじゃないかなと思って、非常にこの研究支援、資金の支援をしていただけるっていうのは非常にいいことだなと、ありがたいだろうと思う一方で、こういう資金を出すときに、ある程度まとまった金額を出してあげて、かつエフォート率っていうんですかね。資金を出すから何か発表して欲しいとか、そういうやらなければならないことが非常に重圧になってたような気がしています。 ですので、資金の額とか、或いはその資金を提供した若手研究者に対するどのようなフィードバックが、我々は得られるのかというのを、ちゃんと入念に詰めていく必要があるだろうなと思っています。 そうしないと、効果的な若手育成にもならないと思いますし、ただお金だけもらってあまり研究できなかった、最近の学生さん忙しそうなので、そういうこともあるんじゃないかなと思いますので、この点はちょっと今後もう少し計画的に、やられてもいいかなというような感想を覚えました。以上です。
佐藤会長	ありがとうございました。 今の点非常に重要ですので、後半で少し議論してみたいと思います。具体的なことをこの場でご相談しないといけないと思っております。 続きまして箕浦先生いかがでしょうか。
箕浦委員	箕浦です。大きく2点ほど申し上げたいかなと思います。 まず1点は、こちらの南アルプス学会が盛り上がっていくためには、やっぱりその内容、コンテンツといえますか、研究の成果というものが見えていくってことが大変重要ななというふうに思うんですけども、成果って言葉で言いますと、論文のような割と形になったものをイメージしますが、ひとまずどのような研究があり得るかということも含めて、我々自身もよくわからないという段階ですので、それぞれの分野からどんな話題がありそうかと、そういう論文になる手前の段階でも発表であるとか、交流であるとか、そういうようなことができて南アルプス研究というものの可能性がどのようにあるのかということが、内外に見えていくような取り組みというものが、早い段階からあると盛り上がっていくといえますか、期待できるような雰囲気を整っていくのではないかなというふうに感じました。 また、そういうものの中から共同研究であるとか、新しい研究の芽生えというものもあるのかなというふうに思いますので、もちろん資金というものが大事ですから、そういうような計画からスタートするということも大変素晴らしいと思うんですけども、その発表の場であるとか交流の場というものを作っていくというものも、1つの考え方としてありそうかなというふうに思いました。それが1点目です。

	<p>2点目としましては、山梨から参加しているということもございまして、この学会は静岡県の政策の一環という側面もあり、静岡県のフィールドを中心にまずは立ち上げていくということは、理解もしておりますけれども、一方で南アルプス学会という、静岡県という名前を冠さない形で組織の名前を作っておりますので、どのようにこれを山梨、長野という静岡県外のところとの連携を広げていくのかということについて、これは長期的な検討で全然構わないと思います。まずは静岡からスタートということで全く構わないと思っておりますけれども、その点も視野に入れた検討というものが必要かなというふうに考えております。</p> <p>研究の公募というところに、その辺りがおそらく制限として、静岡県内のフィールドを行うとかですね、そういうことが具体的には当面入ってくるのだろうなというふうに思っておりますけれども、将来的な展望と、当面進めていくものとの整理というものも必要かなというふうに考えます。以上2点です。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。2点ご提案をいただきました。</p> <p>それから神東先生、お願いします。</p>
神東委員	<p>私は学問的なことは何も言えないんですけども、この学会で話し合ったこととか研究したことが、どういふふうに地域の住民の人にアウトプットできるかなというところが非常に興味深いというか、必要かなと思っております。</p> <p>やはり一般市民からすると、こういう学術的なところってすごく難しいし、自分とは縁がないなというふうにどうしても感じてしまうので、そこをもっと南アルプスって自分たちの地域にあるもので、こういうものなんだよというのが認識されるように、川根本町で言えばそういう地域で住んでる人たちが、「いい地域なんだな」といふふうにもっと関心とか誇りを持てるように、そこにどういふふうに学術をもっと市民レベルにつなげていくのかなというところが、すごい大事なかなというふうに思いました。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>そうですね、この学会の性格みたいなものをちゃんとしていくということだと思います。</p> <p>それから今日は招聘委員として、招聘をさせていただいております上垣外先生。ご発言をお願いできますでしょうか。</p>
上垣外 招聘委員	<p>私は長野県の出身でして、特に母方は伊那の高遠なんですね。</p> <p>そういうわけで南アルプスは赤石岳とか、私好きな山ですけど眺めるだけで、ただ伊那側からずっと眺めてきたので、今回は静岡県側から南アルプスの研究をするということで、もう知らないことが多いのでとても興味を持っております。</p> <p>あと委員の方々を見ますと、やはり自然科学系の方が多いんですね。</p> <p>私専門は比較文学というものですけれども、いろんなことをやってきたので、文化人類学とか民俗学の偉い先生方ともいろいろお付き合いあったんですけども、人口が希薄ですから文化がすごく色濃いかどうかかわからないんですけども、この間静岡県の方々とお話ししたら、やはりそういう民俗的なものはいろいろあるということなので、私はそういう方から、実際井川とか、そういうところに行って聞き取りというか、お年寄りの方々に話が聞きたいと思ってるんですけども。</p> <p>でも基本的に自然科学というのは研究費がどうしても必要なものですし、県の予算が自然各方面にたくさん出るとは、それで結構だと私は思います。</p> <p>人文系はやっぱり体を動かして、話を聞くのが一番大事なんですね。ですからお金はいらないんですけども、そういう井川とかに聞き取りに行く時に、人脈というか、そういう地元のいろいろ古いことご存知の方に連絡をつけていただくというお助けが一番大事なかなというふうに思っております。</p> <p>そういう形で、招聘委員ですから仕事しなくてもいい感じですけど、参画させていただきたいというふうに思っております。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回初めてご意見を伺いする方のご意見を聞いたわけですけども。何かが決まっているというわけではもちろんないんですけども。今日、この会議を進めていく上で、皆様のご意見を特に聞いてみたいと思っておりますのが、先ほどの今野先生もおっしゃったところの、資金をどういふふうに使ってどういふふうな進行をするとか、どういふふうな金額のグラントを出すのかとか、その辺りのことを、これ今後委員会の中で決めていくことだと思っております。</p> <p>まずその辺についての皆様のお考えを聞いてみたいと思います。</p>

	どなたでも結構ですけれども、何かアイデアのある方がいらっしゃれば、田村さん手を挙げていらっしゃいます。お願いします。
田村委員	<p>田村です。</p> <p>前回の打ち合わせの時にも出たと思うんですけれども、若手の研究者の育成ということですが、現実からいうと、なかなかパーマネントのポストがない中で、研究職を育成するのは難しく、県が主催される資金でどこまでできるのかというのと、県がすべきなのかという問題もありますよね。</p> <p>そこで私としては、もちろん若手の専門家の育成をお願いしたいんですが、同時に市民の研究者、在野の研究者っていうのを視野に入れていただきたいと思っています。私関西ですので、滋賀県の琵琶湖博物館ですとか、兵庫県の人と自然の博物館とありますが、そういう博物館が勧誘のような形で、在野の研究者の方を非常にサポートされていて、そこから学術論文もたくさん出てますので、今回ふじのくに地球環境史ミュージアムさんが中核を務められるということですから、こういう展開というのもあるんじゃないかなと思っています。</p>
佐藤会長	<p>やってみました。屋久島もやってたと思います。</p> <p>静岡市の方で、10何年前にかなり大々的な調査をされましたよね。ちょっとご記憶の範囲で結構ですので、ご紹介いただけますか。</p>
川口委員	<p>大々的な調査というか、それこそ静岡市を含めたユネスコエコパーク登録10市町村の方で、10数年前に世界自然遺産を目指そうという動きがありまして、結局今世界自然遺産の方にはなっていないんですが、その時に、今回の大きいテーマの1つであった南アルプス学というものをもとめているものがあります。その辺は増澤先生に当時関わっていただいて、増澤先生が詳しく御存知だと思うんですが、地学的なことや生物学的なこと、あと地域の歴史や文化とか、そういったものをまとめ、含めた形でやっているものがあります。そういうまとめたものと合わせて調査もやっているというところがあります。</p> <p>ちょっと私も当時おりませんでしたので、詳しいところはわからないところも多いんですが。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それはその通りだと思います。</p> <p>他はいかがでしょうか。予定としましては、どういう規模の研究を募集をしていくのか、それから、1年目に募集した研究計画の中でさらに良いものがあれば、その次のステップアップするというようなことも考えるのかとか、いろんな制度設計の仕方があると思うんですけれども、その辺のこともこの中で決めていきたいと思っていますので、もしご意見があれば、今でも結構ですし後でも結構ですので、聞かせていただければと思います。</p> <p>それから成果の発信について箕浦先生からご意見頂戴しましたけれども、これについても何か皆さんいかがでしょうか。さらに具体的な支援がいただけると、知恵がいただけるとありがたいですが、いかがでしょう。</p> <p>なかなか今日は皆さん、手が挙がらないですけれども。</p> <p>岸本先生、東北工業大学の岸本先生、いかがでしょう。</p>
岸本誠司委員	<p>岸本です。</p> <p>成果の発信というところで考えますと、メディアですよ。世に発信していく、様々な情報を共有する、その共有する情報からまた新たな動きをつくっていくっていうような、メディアをどう考えるのかということがまず1点あるんじゃないかと思います。雑誌なんかもありますし、それからウェブ上の展開もあると思いますので、様々な方法の中で考えていけることかなというふうに思います。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。例えばこの学会の学会誌とかそういうのはどうなんでしょう。</p> <p>はい、松井先生。</p>
松井委員	<p>松井です。発信して、そして何よりも学会の実態をどういう形でアピールするかっていうのはすごく大事だと思うんですが、その際に原資となるお金ということで、頂戴した資料の参考資料の中に寄附金の計画というのがあって、それを拝見させていただいたんですが、概ね年間1,500万円規模の予算を寄附金で運営するっていうふうにお見受けしたんですが、そのうちのどのぐらいを、例えば助成に充てるのか、学会誌等印刷すると、それだけで規模にもよりますが、相当のお金が出てくると思うので、そのあたりもし県の方でそういった予算のある程度の考えがあれば、それに沿って実際の助成の規模ですとか、人数ですとか、そういうことが見えてくるかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。</p>

佐藤会長	事務局いかがですか。
事務局	<p>今ご質問いただきました基金の関係ですが、この後の説明の中で参考資料3ということで、皆様にお配りさせていただいているんですけど、もしよろしければそちらをお開きいただいでよろしいですかね。</p> <p>今松井委員からお話がありました、基金の内容になっております。5番のところに、計画というのがございまして、R2年度については、全体として、とりあえずまず4年間の目標としまして、全体で2億円の基金を醸成したいと思っています。そのうち、一般財源という記載があるんですけど、こちらについてはもうすでに県費をつけておまして、これが1億5,000万と。残りの5,000万を、ふるさと納税とかを活用して個人、企業の方から、この4年間で集めて、合計2億円で、この学会だけじゃなくて、後ほどご説明します南アルプス全体の取り組みについて、お金を使うこととなりますので、単純に2億円を4年で割ると、年間でいくと5,000万とかそれぐらいが年間のベースになります。</p> <p>一応こちらで描いていた、あくまでまだ案ですけれども、考えていた案でいきますと、例えば研究費の資金につきましては、例えば500万を用意しまして、50万円掛ける10件とか、そこについては皆様のご意見をいただきながら、今後進めていきたいと思うんですけど、規模的には正直その程度になってしまうかなと思っております。</p> <p>なかなか1,000万とか2,000万を研究費の助成にするというのは、どうしても南アルプス全体の中でいきますと、ちょっと厳しいのかなと思っております。</p> <p>実際に今の寄附の状況なんですけど、5の(2)のところに書いてある通り、令和2年度から、この1年ちょっとで集めた金額が824万9,000円と。元々の計画でいきますと、R2年度とR3年度は600万と1,500万でしたので、2,100万が目標だったんですが、実際のところまだ800万ぐらいしか集まってないという現状もありますので、こちらについては県の方で、企業に働きかけを行ったり、いろんなところでアピールをして、より皆様に今後寄附をいただけるような体制を整えていきたいと思っております。以上になります。</p>
佐藤会長	<p>はい、ということでしたけれども、どういうふうに設計するかというのはこれからの問題だということだと思います。ですから、こういう全体の会を開くなり、オンラインの会を持つなりして、どういう設計にして、どういうふうな配分をするかということも、今後ご相談をしたいと思います。そういうことでよろしく願います。</p> <p>他はいかがでしょう。</p> <p>成果の発信などにつきましても、それから一般への関心という、さっき神東さんがおっしゃったところも全くその通りでありまして、これ学会と言っていますけれども、研究者だけの団体という意味での学会ではないと私は思っています。</p> <p>ですので最初に横山先生もおっしゃったような、この言葉の問題というのは、専門家の中の言葉が通じないということもありますけれども、学術の社会と一般社会との間の言葉の問題というのもあって、そのあたりのところは、この学会の性格としては皆さんどうでしょうか。</p> <p>私は、一般の方が読んで十分にわかるような、そういう言葉遣いをする、特にその文系理系違うともうそれだけでわかりませんので、だからそういうふうな配慮するような、そういうふうな発信の仕方を心がけたいと思うんですけども。</p> <p>いかがでしょう。その辺も含めましてご意見を頂戴したいと思います。じゃあ横山先生。</p>
横山副会長	<p>今佐藤さんがおっしゃったことは、結局この構成メンバーがお互い遠慮せずに、また恥ずかしがらずに、わからないことはわからないと、わかるまで食いつくという、そういう習慣が広まっていかないと。</p> <p>何だか1人が言うシーンとなるような付き合いを続けている限りは、文体も磨かれていかないということで、簡単な話です。だからこのオンラインがあかんのですわ。たよりすぎますとね。やはり互いの顔を見て、たとえば、あの人、僅かに首を傾げたなどわかって、少し言い換えてみようとか、そういう関わりをできるだけ設けたいと思いますね。よろしく願います。</p>
佐藤会長	<p>おっしゃる通りです。</p> <p>スクリーン見てますと首傾げてはるなどか、頷いておられるなどかというのはよくわかりますけれども。</p> <p>今おっしゃったように、わからんものはわからんという、そういう文化を共有したいと思いません。</p> <p>常盤先生どうですか。さっきから何回か頷いておられる。</p>
常盤委員	皆さんおっしゃる通りだと思っまして、横山先生がおっしゃったように、若者言葉で言うとお

	<p>つちやけるということだと思います。</p> <p>僕の方もぶつちやけますと、神東先生もおっしゃってましたけれども、アウトプットの仕方とか、そういうのがとても大事になってくると思います。それは資金面でもそうですし、資金を獲得するという面で非常にそうだと思ってまして、我々地質の分野で何が一番のアウトプットかと考えたときに、1つはもちろん研究成果で、他の先生もおっしゃった論文を書くとかあるんですけども、実は一番効果があるのは、NHKのプラタモリって皆さん知ってると思いますけれども、それが実は一番地質学の分野では影響があります。地元の人しかり、あれのいいところはですね、地質学に収まらず、人文であるとか、あとは他の理学系の分野、植物であるとかいろんな分野が重なり合ってアウトプットしているということで、まさに南アルプスの、この学会の見本になるというのもあるのかなと思ってまして、それを考えたときに県の方々が非常に頑張っているしやっ、参考資料の方の2ページぐらいにユーチューブカレッジとか、そういうのやってらっしゃるんですね。</p> <p>なのでこれも1つの非常に貴重なアウトプットの仕方かなと思っております。まとまりがなくてすみませんけれども。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>タモリ呼んで可ましようかね。他はいかがでしょうか。</p> <p>今日は設立総会ということで、抽象的な、漠然とした話が多いんですけども、次回以降は具体的な話を少ししたいと思っておりますので、何かシーズになるようなご提案をいただいても良いと思うんですけども、提案というと黒田先生はデザインの専門でいらっしゃいますので、何かアイデアをちょうだいできるとありがたいのですが。</p>
黒田委員	<p>ご指名でいきなりアイデアもないんですけども、先ほど会長から、学会誌のようなものを、やっぱり発信のためにはメディアを持つことは非常に重要だと思うんですけども、私もいくつか学会と関わっておりますけれども、どうしても研究者が集まって、学術研究論文って言うと、分野によってわかりませんけれども、あまり多くの方が、そもそも読まないもんだと思ってらるんですね。</p> <p>学術的には価値があるかもしれないんですけども、そういう意味で学会誌もちょっと名称に工夫が必要かもしれないんですけども、なんかやわらかく、いわゆる専門的な、学術研究の論文があってもいいのかもしれないんですけども、多くの方、ないしは違った分野の方もとっかかりができるような、例えば本で言ったらですね、専門書もいいかもしれないけども、せめて新書ぐらいの中身で、中身揃えて、ある程度気楽でも読めるとかっていうような内容の、編集上の工夫っていうのができると少し読者層も広がるのかなという感じがいたします。あまり分厚いといけなかなと思いますけれども、その辺はどこかで検討させていただけると、検討に参加できるとありがたいなと思います。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>そうですね、私に関係しているいくつかの学会でも、異分野の人が入ってくると、もう相手は素人だと思えと、そういうふうなことをよく言いますけれども、その配慮が大事なことだと思います。</p> <p>他にいかがですか。田村さん手を挙げられたんですか。上げてない。遠慮せずにどうぞ。</p>
田村委員	<p>ではせっかくなので1つだけ。</p> <p>学会誌は、結局誰が査読すんねんというのがすごい引っかかるというか、このメンバーが査読するというのですかというのを考えると、なかなか負荷が大きいなと思うので、学会誌というよりは何かイベントみたいなのがあっていうのと、あと私気になっているのは、自然活動団体の人が生態学者とか、地質学者に繋がるような仕組みができないのかなと思ってまして。</p> <p>普段やってらっしゃる活動の中で、何か引っかかることがあるんですけども、オンザグラウンドの人の、文科系でももちろんですけども、例えば、この村の最後のおじいさんが死にそうだなみたいな情報が、上がってくる仕組みができないかなと思ってます。</p> <p>そういったものが、様々な科学を拠り所としてどう新しい繋がりを作っていけるかというのは、ジオパークや私自身も大きな関心でもありますので、そういったところはどこでも大事な視点になってくるんじゃないかなというふうに思います。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>査読が大変だという超現実的なお話です。</p> <p>他はいかがでしょうか。岸本さん、岸本先生どうぞ。</p>
岸本年郎	<p>推進の事務局というか中心的なことをやらせていただくことが多くなると思うんですけども、</p>

委員	<p>例えば出版物を出すというの、いろんなジャンルのものがある、今ジャーナルみたいなものを作るとすれば、田村先生がおっしゃったとおり難しいところもあるかもしれませんが、一方で、気軽に出せるようなものとしては、当館の、ふじのくに地球環境史ミュージアムの研究報告がございます。「東海自然誌」というんですけれども。そういうのを出していただいて、査読をそのジャンルの先生にお願いをするということも、今やっておりますので、その活用もあるし、それから発表の場所としては、皆さんからご意見がありましたけど、やはり実際に同じ場所に集まって、研究者、それからこのメンバーの方も含めて、それからファンドを取られて、研究をされた、実際にデータを出された方、そして地域の方と、やはり南アルプスって登山者の方々、南アルプスに登られる山岳ファンの方々、そういった方たちが一同に集まって、いろんなアイデアを出したり、面白さをぶつけ合うような場所の創出というのが、とても大事ではないかというふうに思っています。皆様のアイデアを頂戴して、今それこそこうやってお話をすることだけ、あとは内容を伝えるだけということは、ウェブでもできるんですけれども、実際にお会いして、立ち話などの別の場も含めた実際の交流もとても大事だと思うので、そういうことも大切にしていけたらなという事は考えております。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。 少し具体的なご提案でしたですね。 これエンドレスにやってもいいんですけれども、後ろのこともありますので、今日まとめることはいたしません、増澤先生いかがでしょうか。ご意見をいただければと思います。</p>
増澤顧問	<p>いくつかの皆さんのご意見を聞いて、全部もつともだなど思うんですが、なぜもつともだと思うかという、これは一般の、普通に私たちが考えている学会ではないってことなんですよね。 まずそれを皆さんにしっかり共通の基盤にしないと、研究者の方々学会入っておられるので。私で言えば、生態学会とか日本植物学会とかいろいろな分野の学会がありますけれど、この学会ではないということ一度共通の基盤に持たないと、そうではないといろんなところから学会誌どうするんだ、それから審査どうするんだ、または学会でしたら理事が必要でしょう。それから学会費も必要ですよ。そして雑誌もちゃんと文科省で認められた雑誌を出さなきゃいけない。これ学会の最低限の規則なんですけれど、いわゆる学会って今回から名前がついてしまいましたので、その学会のイメージから言う、研究者が入ってる学会ではないということ、全員基盤として持たなきゃいけないと思います。 それから多くの方、皆さんおっしゃっておられる、在野の方、在野っていう言い方があるかどうか知りませんが、いわゆる研究者として研究機関に属しておられない方の研究を、一緒にやっていくというのが意見だと思いますけれど、そうしますとやっぱり、いわゆる学会ではない、グループですね。名前が学会ってついていますよ、でもそうではないという立場でこれから進んでいくということになると思います。 それを一つ一つ中身を決めていくのが、今後の皆さんとの顔合わせという会議じゃないかなというふうに思います。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。 もう私が言うべきこと全部言っていただきましたので、繰り返し申しますけれども、研究者だけの狭いコミュニティを作ろうということではなくて、そこには南アルプスに関係しているいろんな方が入って、いろんな角度で、まあどうするかっていうのは具体的な方法はこれから考えますけれども、そういういろいろな立場の方の意見が自由に出せる、そういうプラットフォームとしての学会、という位置付けで進めてまいりたいと思います。 かなり新しいチャレンジだと思うんですね。ですからそういう点で、この場でそのことを皆さんで確認をさせていただきまして、時間がありますので、特にこのことだけは言っておきたいということがもしあれば、拝聴しますがいかがですか。 上垣外先生お願いします。</p>
上垣外 招聘委員	<p>お金のことでちょっと話が出たんですけど、私国際学会の会計理事を6年やって、常時日本円で500万円600万円ぐらいずつ動かしていたんですけども、学会のお金は基本的に会費で賄われているので、集める苦労はあまりなかったんですけども、今回聞いてると寄附を募るといってね。寄附金を募るんだったらこれはね、川勝さんに動いてもらわないと大きなお金を集められないと思います。 ですからこの会で、川勝知事をね、どういう位置付けにされるのか。最終的に自分が何らかの意味で重要な形で参画してるという気持ちがなければ、川勝さんだってね、県の財界にぜひ寄附をと、動きませんよ。</p>

	<p>私、国際日本文化研究センターができたときに、財団の仕事は私はやりませんでしたけど、所長になった梅原猛先生ね、関西財界みな回って、10億円集めたですよ。</p> <p>ネームバリューのある人が行かなければお金出ません。財界はこの人が研究者としてどのくらい偉いかなんてわからないですから。</p> <p>ですから、これは川勝さんが言い出しっぺで始めたことなんですから、お金集めは川勝さんに動いてもらうように、うまく川勝さんにお話するべきだと私も思いました。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>先生が入ってこられる前に川勝さんが挨拶をされて、主催者の1人として、というふうにはっきり明言をされましたので、そのご自覚はお持ちだと思います。</p>
上垣外 招聘委員	<p>ただ今年あまり寄付集まってないでしょう。川勝さんに動いてもらうべきですよ。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは一旦、今日のところは今頂戴したようなことを踏まえまして、またこの議論を踏まえまして、どういうふうな制度を作っていくかということにつきましては、副会長や、顧問の先生方を含めまして、まず原案を作りまして、それを皆様方のところに何らかの格好で提示をいたしますので、その後また集まって、少し具体的なお話ができればというふうに思っております。</p> <p>今日のところはそういう整理にさせていただきたいと存じます。ということで、ご議論いただきまして誠にありがとうございました。おかげをもちまして、だいぶ格好が見えてきたのかなという気もいたしますので、このあたりでマイクを事務局にお返しをしたいと思います。</p> <p>よろしく願います。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは最後になりますが、その他の事項について、ご案内をさせていただきたいと思っております。資料といたしましては、参考資料を使いましてご案内をさせていただきます。</p> <p>今回ご案内を差し上げますのは、この3つある資料のうち、最初にあります令和4年度の本県の取り組み予定についてのご案内をさせていただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>参考資料1をご覧ください。</p> <p>大きく2つ、生態系の保全に関する取り組みと、次のページの魅力発信に取り組み、こちらの2つを検討して取り組んでおりますので、令和4年度の計画についてご説明いたします。</p> <p>まず、生態系の保全に関する取り組みとしまして、生物多様性の確保ということで、ニホンジカの食害から高山植物を保全するため、これまで防鹿柵を設置して維持管理を行っております。現在は4ヶ所で管理をしております、来年度は新たに2ヶ所に設置して、計6ヶ所の維持管理を行っていきたいと考えております。</p> <p>また、今年度初めて、ニホンジカの試験捕獲を行いました。結果としましては、10頭捕獲ができました。来年度も引き続き試験捕獲を実施して、課題などがいろいろありますので、そちらも試験捕獲をしながら整理していく予定であります。</p> <p>次に絶滅危惧種の保護としまして、高山植物種子保存プロジェクトです。こちらは、今年度6校の農業高校で、高校生がいろいろと考えながら、オオサクラソウなどの絶滅危惧種の種子保存に取り組みました。来年度も引き続き実施し、さらに、高校生は実際に植生地まで登山をして、南アルプスの自然環境を直に感じていただきながら、また生物多様性の重要性を学んでもらうことを考えております。</p> <p>次が新規で、令和4年度から新規としまして、生き物探索プロジェクトです。こちらは、これまで調査が進んでない南アルプスの微小生物類について、県が現在進めております「ふじのくに生物多様性地域戦略」の取り組みの1つとして、大学などの教育機関と連携して、地域個体群の発見を目指す取り組みを進める予定であります。</p> <p>次に、南アルプス動植物調査です。先ほど岸本委員の方からお話がありました通り、今年度から南アルプスの動植物調査を実施しております。今年度の成果としましては、半世紀にわたって記録がなかった蛾を発見することができました。南アルプスは非常に広大ですので、来年度以降も場所を変えて調査を進めていきたいと考えております。</p> <p>次のページをご覧ください。</p> <p>魅力発信に関する取り組みです。</p> <p>先ほど常盤委員の方からお話をいただきました南アルプスユーチューブカレッジです。こちらですね、今年度これまでに本学会の増澤顧問や、岸本委員などをお願いをしまして、10人の方に講義をしていただきまして、その映像をユーチューブで配信をしております。それを</p>

	<p>することによって、一般の方がより南アルプスを身近に感じていただく機会の創出に繋がったと考えております。来年度も引き続き、また新たな方にもお願いをして実施を予定しております。</p> <p>また、今年度はドローンによる映像撮影も行いまして、SMSなどを活用して広く魅力発信も行っています。かなり大きな反響がございますので、来年度もまた別の箇所を撮影して、発信をしていきたいと考えております。</p> <p>続きまして、南アルプスのウェブアプリケーションの開発です。こちらにつきましては、現在、作成をしているところなんですけど、今年度は、次代を担う子供を対象に、幼いうちから子供が南アルプスに触れる機会を提供するために、南アルプスに関係した学習ドリルのようなコンテンツを現在開発しております。来年度は、県内の大学の教育学部などと連携して、さらに内容を充実させていく予定であります。</p> <p>次に環境教育の推進です。</p> <p>こちらにつきましては、先ほどご説明しました来年度設立予定の南アルプス未来財団において、学校への出前講座などを中心に、環境教育の実施を行っていく予定であります。</p> <p>続きまして南アルプスを未来につなぐ会です。</p> <p>こちらにつきましては、来月、3月上旬をめどに、設立記念イベントを実施します。山極会長の基調講演や、高校生による種子保存プロジェクトの取り組み内容の発表、それから会長と高校生らとのパネルディスカッションなど、また映像を撮影してユーチューブで配信する予定です。</p> <p>来年度は、保全と利活用の課題やその対応について、引き続き協議を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>最後に、財団です。</p> <p>こちらは先ほどご説明した通り、来年度8月の設立を予定しております。夏の時期には、職員が現地に常駐して、レンジャー的な動として現地のパトロールを行ったりしながら、現地の状況把握や、あとは研究者の方が調査研究する際の支援も行う予定で考えております。</p> <p>最後になりますが、今ご説明しました内容につきましては、2月議会の審議を経て予算が成立した場合に実施できる内容となっておりますので、現段階でまだ計画ということで、ご了承いただければと思います。</p> <p>事務局からの説明は以上になります。</p>
司会	<p>ただいまのご案内について、ご質問等ございます方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それでは、ご質問は特にないようですので、ご案内の方を終了させていただきたいと思えます。</p> <p>最後にもう1つご案内をさせていただきます。</p> <p>今後、皆様との活発な情報交換をさせていただきたいと思っておりますので、私どもの方でメーリングリストの方を作成させていただきます。また出来次第、皆さんの方にご案内をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは以上をもちまして、南アルプス学会設立総会を終了させていただきます。長時間にわたりまして、本日はお忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。</p> <p>今後とも、本会の運営につきまして、多大なるご支援をいただきますようよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>